



令和8年度から、
妊娠28週～36週の妊婦の方を対象に

RSウイルス 感染症に対する 母子免疫ワクチンの 定期接種を実施します。

RSウイルス感染症は乳幼児が感染すると重症化することがあります

RSウイルスは小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、2歳までにほぼ全ての乳幼児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。

感染すると、発熱、鼻水、咳などの症状が出現し、初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、重症化することがあります。

2010年代には、年間12万人～18万人の2歳未満の乳幼児がRSウイルス感染症と診断され、3万人～5万人が入院を要したとされています。



定期接種の対象



接種時点で、**妊娠28週0日 から 36週6日** までの妊婦の方
過去の妊娠時にRSウイルスワクチン(母子免疫ワクチン)を
接種したことのある方も対象になります。

定期接種を受ける方法と費用

定期接種はお住まいの(住民票のある)市町村で実施されます。
接種できる場所や費用について、詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。また、里帰り出産によりお住まいの市町村外での接種を希望する場合についても、お住まいの市町村にお問い合わせください。